平成30年度第１回岡山市総合教育会議

日時：平成30年８月23日（木）

場所：市庁舎　第３会議室

午後３時31分　開会

○司会　失礼いたします。ただいまから平成30年度第１回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は、６名中５名のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望がありますが、入室を許可してよろしいでしょうか。

○市長　よろしいですよね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　はい。

○司会　傍聴者の入室を許可します。

〔傍聴者入室〕

○司会　それでは、協議事項に移らせていただきます。

議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。市長、よろしくお願いいたします。

○市長　はい。では、これから総合教育会議、始めさせていただきたいと思います。

今、急に、すごい雨になってきまして、直接、この総合教育会議とは関係ありませんけれども、７月の豪雨、7,600を超える住家被害、浸水被害が出ました。非常に広範囲に被害があったということで、我々も非常に深刻に受けとめながらも、一刻も早い日常生活を戻すべく対応しているところであります。今日の台風もそろそろまた、いろいろな手を打っていかなきゃいけないような状況でございますけれども、１時間半、これから議論をよろしくお願い申し上げたいと思います。

この総合教育会議で12回にわたる議論を重ね、その議論を踏まえて、昨年２月に「学力の向上」と「問題行動等の防止及び解決」を目標に掲げた岡山市教育大綱を策定いたしました。本日の会議では、大綱の目標の一つである「学力の向上」をメインの議題とし、まず学力に関する全国調査の結果や取り組み状況等について報告していただき、それらを踏まえて、課題や今後の方向性などについて議論していきたいと思っております。

また、岡山市中学校長会の原田会長、岡山市小学校長会の服部会長にも議論に入ってい

ただき、学校現場における変化や取り組み、ご提案など、幅広いご意見をいただければと思います。

それでは、原田会長、自己紹介、まずお願いいたします。

○原田中学校長会長　失礼いたします。本年度、岡山市中学校長会会長を仰せつかっております、灘崎中学校校長の原田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○市長　はい、続きまして、服部会長、お願いいたします。

○服部小学校長会長　本年度、小学校校長会の会長をさせていただいております、財田小学校の校長の服部です。よろしくお願いします。

○市長　はい。では、今年、よろしくお願いいたします。

そして、昨年に引き続きまして、ベネッセコーポレーションの西島さん、梅田さんにもご参加いただいております。

○ベネッセ（西島・梅田）　よろしくお願いいたします。

○市長　よろしくお願いをいたします。

それでは、議事を進めます。資料１について、教育長から説明をお願いいたします。

○教育長　はい、失礼いたします。今回、「学力の向上」というテーマを取り上げていただき、まことにありがとうございます。教育大綱の柱の一つである「学力の向上」に関する教育課題は、教育委員会が最も重点を置いて取り組んでいる課題であります。

まずは、岡山市の子どもたちの現在の学力の状況について報告をさせていただき、同時に学力の向上に向けた教育委員会の取り組みの成果と課題についても説明をさせていただきます。

説明の概要は、資料１－１にまとめておりますので、ご覧ください。

まず、岡山市の子どもたちの現在の学力の状況についてご報告いたします。

資料１-２をご覧ください。「学力の向上に向けて」と書いてある資料でございます。

資料の上段部分に、４月に行いました全国学力・学習状況調査の結果を載せております。昨年度と比べますと、小学校は若干下がりました。全国との比較では、全国平均に近いところを維持しておりますが、少し下がりました。また、中学校では、国語Ａ以外は全国平均を下回っておるんですけれども、この２年間で見ますと、全国平均に近づきつつあると考えております。

課題も浮かび上がっている一方で、これまでに授業づくりや家庭学習の充実に地道に取り組んできた成果があらわれているところも多くあり、取り組みの方向性は間違っていな

かったと考えております。したがいまして、今後は課題として考えられることを中心に、「徹底」するということをキーワードに取り組んでまいりたいと考えております。

それでは、授業づくりと家庭学習の２点につきまして、「徹底」することについての具体を説明したいと思います。

１つ目は、授業づくりについてであります。中学校では、Ｂ問題の正答率が低い傾向があり、知識を活用する力が十分育成されていないことが課題と考えております。知識を活用する力であります。授業の進め方については、基礎的な知識を身につけることと、その知識を活用する力を育成することをバランスよく授業に取り入れることが大切です。特に、知識を活用する力を育成するためには、児童・生徒が自分で考え、表現する場をバランスよく授業に取り入れるよう、指導・助言してまいりたいと考えております。しっかり読んで、しっかり書くということを授業に取り入れていくことも必要だと考えております。このような取り組みが無解答率の減少にもつながっていくものと考えております。

こうした取り組みが十分学校で実施されているかどうか、校長先生方には、しっかり見て回っていただきたいということも考えております。教育委員会からも、今年度後半から、指導主事がこれまで以上に学校訪問し、助言する機会を増やす予定にしております。校長先生と一緒に授業を見て回ったり、校内の研修にも参加したいと考えております。具体的には現在検討中でありますが、研修や学校訪問での指導・助言をこれまで以上に行い、授業づくりの基本をいま一度徹底してまいりたいと考えております。

なお、無解答率への対応については、各校が目標値を設定して取り組んでおり、昨年度は効果がありましたが、今年度は十分に効果が見られないという状況であります。各校が目標に対してどのように取り組み、結果がどうだったのか、そのあたりの検証が十分できていなかったのではないかという仮説のもと、今年度後半に各校が検証できるようなシートを作成するなどして、学校の取り組みを支援してまいりたいと考えております。

２つ目は、家庭学習についての「徹底」であります。小学校、中学校ともに、「自分で計画を立てて勉強している」、「月曜日から金曜日というふだん、１日当たり１時間以上勉強している」、「学校の宿題をしている」の３項目全てにおいて、昨年度より改善傾向になりました。しかし、中学校においては、全国平均にまだ至っていないことや、学校間でも差が見られました。

家庭学習につきましては、昨年度の後半から「家庭学習これだけは！」という、参考となる取り組みをまとめたパンフレットを作成し、月に１回程度のペースで発行し、周知を

図っております。例えば、この取り組みが広がりを見せているのか、どの程度活用されているのかという検証が十分できていないと考えております。現在、小学校長会、中学校長会のほうで、家庭学習についてのアンケートを実施し、各校の取り組みの状況を把握しているところであります。今後、集計、分析を行い、「家庭学習これだけは！」が十分活用されているかを確認するとともに、今年度の後半から各学校が抱える課題を把握し、それぞれに対して、どのような取り組みをすることが有効なのかという提案をしていく予定にしているところであります。

以上、学力の向上に向けて、授業づくりと家庭学習の「徹底」ということについて説明をさせていただきました。

実際のところ、教員が意欲的に研修に取り組んだり、各学校で授業改革を進めたりする様子は十分把握しております。しかし、近年、若手の教員が爆発的に増えてきており、若手の育成は喫緊の課題となっております。このような実態も踏まえながら、学校への働きかけを行ってまいりたいと考えております。

教育委員会からの報告は以上でございます。

〇市長　ありがとうございました。

引き続き、資料２について、ベネッセコーポレーションの西島さんから説明をお願いいたします。

〇ベネッセ（西島）はい、失礼します。ベネッセコーポレーションの西島でございます。

とじ物の資料になります。表紙をまずご覧ください。

全体は２部構成になっておりまして、１つが学校質問紙／児童・生徒質問紙の全国との比較、前年度との比較でございます。後半は、学力層を４つに分けまして、層別に児童・生徒質問紙を見ているという層別分析ということになります。まずは、全体、前半からということになります。

その前に、１枚めくっていただきまして、「はじめに」というようにございます。昨年度の平成29年度の調査とは違う面がありますので、まずそこのご説明をさせていただきます。

今年度は、理科が加わっておりますので、質問紙の中にも理科の項目がございます。一方で、理科が加わったことで全体が膨れ上がらないようにということで、質問紙の内容を大幅に見直され、特に児童・生徒質問紙は削減されており、文言が変わっているところもあります。したがって、直接的に比較できる項目ではないものもありますので、ご注意い

ただければと思います。

それから、国語独自の質問がなくなっているというところもございます。

また、非常に材料が多いものですから、一番下にありますように、５％未満の変化あるいは差のものには、グレーの網かけをしておりますので、ご注意をいただけたらと思います。

ではまず、小学校に関して、全国との比較、前年度との比較ということで進めさせていただきます。

まためくっていただきまして、３ページ、４ページになりますが、ページの構成として、上側に、上回っている質問、岡山市様が上回っている、あるいは前年度よりも高いというものが来て、下側に、下回っている、あるいは低いというようなものが来ているというふうにご覧ください。それぞれ10項目ずつ、洗い出しをしております。

では、３ページでございますが、こちらは小学校の学校質問紙の結果です。全国よりも上回っているものの10項目上位を拾っております。特に、赤いところが特徴的なキーワードということ、それから青い色ですとか緑の色で幾つか色づけをしておりますが、そこは共通の言葉ですね、「地域」、この３ページで言えば「地域」ですとか「近隣」ですとか、そういったところを洗い出した形で使っております。

一個一個触れていく時間ございませんので、全体をばっと見ていただきますと、一番上に大きな差があるのが、観察実験補助員が岡山市様は非常に充実をしているということが言えます。

また、近隣、地域というような言葉がたくさん散見されるかと思います。そういったところで、全国に比べて、非常に充実した指導がなされているということが言えるかと思います。

また、算数という言葉も幾つか散見されると思いますが、こういったところで全国よりも良好な指導がなされていると言ってよいのではないかというように思います。

逆に、下のほうになりますが、全国よりも下回っているというところで見ていきますと、特に青い字にご注目いただけたらと思いますが、研究、体験、実生活、好奇心、あるいは体験ということで、児童の方の好奇心を高めるような、そういったご指導というのが、少し少な目ではないかと。上の上回ってるところで、観察実験補助員の配置について非常に充実してるんですが、中身として、まだまだ足りない面がある。それは理科だけではなくて、職場体験、職場見学ですとか、そういったところも含めて、足りない面がある

のではないかなということが言えるかというように思います。そこが、全国に比べて下回っているところで、目立ったところになります。

次に参りますが、次は昨年度と比較をして、上回っている質問、下回ってる質問ということになります。昨年度と比べますので、調査の質問そのものが若干違うものがありますので、そこは、例えば上から２つ目、30番のように、【前年度】ということで記載をしております。若干ですけれども、この30番で言いますと、今年度は後半が「よい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を」というふうに具体的に書かれておりましたが、昨年度は「児童に伝えるなど積極的に」というふうな形で、少し抽象的でした。こういった表現の違いもありますので、比較ができるように併記しております。

こちら、昨年度よりも上回ってる、すなわち、昨年度１年間、小学校の先生方が非常に頑張られた項目というふうに見ていただければと思います。

こちら、上から赤いところをばっと見ていただきますと、学級運営ですとか学習指導、地域連携、あるいは学校の組織力、自己研鑽、本当に幅広い領域で、昨年度に比べて非常に高いポイントを出されているというような形になっています。本当に、先生方、頑張ってらっしゃるなというのが、よくわかる一覧になっております。

また、表の右から２番目、全国との比較の数値も並べておりますが、特に上のほう、学級全員でということですとか、３つ目の教育内容、地域の外部の資源の活用、こういったあたり、非常に高い、全国に比べても高い数値を出しているような状況です。ただ、マイナスの、全国に比べて、まだまだマイナスの面もあるというところは課題かなというように思っております。

ちなみに、学力の結果と、この質問紙の肯定率の結果というのは、ある程度相関がありまして、秋田県ですとか福井県ですとか、そういったいつも上位だと言われる県の質問紙の肯定率は非常に高いです。やはり、こういった指導項目あるいは学習項目に関して肯定できる指導というのは、よい指導だというように考えていいのではないかと思いますので、全国に比べてプラスになれるようにというのは、一つのありたい考え方かなというように思っております。

それから次、下のほうですが、下回ってる質問ということで、下、網かけをしております。５項目、網かけをしており、５ポイント未満の差しかないということですので、差があるというように明確に言えるのは、上の５つぐらいかなということです。したがって、上回ってるのはたくさんありますけれども、下回ってるのは、そうたくさんないと見てい

ただいていいかというように思います。

とはいえ、下回っているわけですので、それを見ていきますと、地域との連携、61番に関して非常に大きなマイナスになっておりますが、恐らく、これ、「地域学校協働本部」という言葉、前年度は「学校支援地域本部」という言葉だったんですが、この言葉の変化によって、少し評価といいますか、回答が変わったのかなというようにも思われますので、直接これが、本当にボランティアの仕組みが崩れてしまったというふうに見るべきではないと思います。が、ここですとか、あるいは60番、62番といったあたりで、地域との連携のお話がありますので、少し弱まってる面があるかもしれないというところは注視をしておいたほうがいいかなというように思います。

また、66、68のところは、家庭学習に関するところですけれども、家庭学習時間は比較的良好になってきてはいるんですけれども、この学習方法を具体的に指導する、あるいは課題について評価・指導するといった中身のところは、まだまだ伸び代があるといいますか、手を入れるところがあるんだろうというように思っております。

以上が小学校の学校質問紙でございました。

次に、小学校の児童質問紙です。児童質問紙も、やはり傾向としては同様で、学校質問紙と同様で、全国と比べてプラスはたくさんありますが、マイナスは非常に少ないです。したがって、子どもたちも非常に頑張ってるというように言っていいかなと思います。

まず、上回っている質問のほうです。こちらも、赤いところをざっと見ていただいたり、青いところを見ていただいたりしたらと思いますが。本当に、規律正しく努力をしたり、認め合ったり、自己肯定感を養うような、よい学級づくりができてるなということがうかがい知れる、児童質問紙の結果になってると思います。全国に比べても、非常に高いプラスを示している項目になっています。

また、全国より下回ってるという項目、下のページになりますが、こちらは特に上の５つは、難し過ぎても時間は余りますし、易し過ぎても時間は余りますので、余り直接的な指標にはならないというふうに考えてよいと思います。それ以外も、0.何ポイントしか差がありませんので、全国に比べて、岡山市の子どもたちがまずいなというところは平均的に見たら特にないと見ていいというように言えます。

続きまして、次のページ、９ページですが、昨年度と比較した場合になります。

昨年度と比較して、よりよくなったというところで、上の２つは、先ほど申したように問題の難易度によって非常に前後しますので割愛をしますが、次の４つ、考えを深めた

り、広げたり、あるいは、よいところ、人の役に立つ、いじめはいけない、本当に、人が育ってる、あるいは自己肯定感が高まってるということが言えると思います。

グレーアウトしたところではありますけれども、地域とのつながりですとか、放課後の学習ですとか、計画を立てて勉強するといったところも、前年に比べてプラスになってきておりますので、本当に指導がきちんと行き届いている状況になってきてるのではないかなというように思っています。

続きまして、下の、下回っているというところですけれども、下回ってるところも、上２つは、もう特に必要ないかと思います。ただ、課題がここで見えてくるのが、32、31、34、28の算数のところになります。児童の方の算数に対する意識ですとか、あるいは問題を解く、与えられた問題を解くというだけではなくて、さまざまな、活用できないかですとか、ほかに方法はないかとか、そういったことを幅広く考える、算数に対する意識が少し、前年に比べたら下がっているなというところは、確認しておいたほうがいいかなというところになります。

以上が小学校の質問紙となります。

続きまして、全国と前年度と比較した中学校の質問紙になります。

13ページ、まずは学校質問紙の全国よりも上回っている質問、また次のページでは下回ってるというものになります。

中学校のほうも小学校と同様で、全体的には非常によくなったほう、上回ってるほうが多いというふうな結果になっています。が、全国に比べて、この学校質問紙は、まだまだ、もっと頑張れる余地があるのかなというようなところになります。

全国より上回ってるほうからご覧いただきますが、家庭学習というところが最初に２つ、数学も理科も出てきています。しっかり宿題を頑張ってるというところが見えます。

が、緑のところで、小学校との連携、74番、３つ目の74番と、20番、６つ目ですね、６つ目の20番、小学校との連携の話があります。全国に比べては非常に高いんですけれども、小学校が非常に低いんですね。岡山市の小学校の数値を併記しておりますが。中学校と小学校で意識の差があるというのが、この状況かというように思います。中学校は受け入れる側、小学校は送り出す側で、仕方がない面はあるとは思いますけれども、まだまだ本質的な連携まではいけてないんだろうなというところが、改善の余地の一つかなというように拝見をしております。

次、14ページですが、今度は下回ってるところです。ここは下回ってるところが多うご

ざいまして、十数ポイント、全国より下回ってるものが幾つか挙げられております。

まず、昨年度も非常に話題になりました、下から５つ目ですね、81番、校長先生の見回りというところ、一番右の数値、23.7とありますが、前年度と比べたら本当に大きく改善をされておりますけれども、まだ全国に比べたら不足をしてるという状況かと思います。

また、下から２つ目ですけれども、授業中の私語というのがございます。授業中の私語も、前年度に比べると非常に大きく改善してます。「H30－H29」のところは、21ポイントも改善をしておりますが、全国に比べたら、まだ不足をしてるというふうな状況かと見受けられます。

問題行動とそれから学力向上という２つのテーマで大綱を出されておりましたけども、やはり問題行動のところ、基本的には授業の規律というところともつながってくるかと思います。そういった意識で、しっかり指導はされているけれども、まだまだこれからだというところかなというように思っております。

それからあと、全体的に見ますと、学力調査の分析に関して、中学校の場合は全国よりも少しできてない面があるかなというのが見えます。緑色の字のところになります。

それから、「カリキュラムマネジメント要研究」というふうに書いておりますけれども、次の学習指導要領のキーワードの一つとして、カリキュラムマネジメントということが言われています。上の２つ目、３つ目あたりですね。教育課程表を、全教科の関連あるいは教育目標との関連、こういった形で整理をしているのか。あるいは、15番にありますように、組織全体でカリキュラムをちゃんとわかるようにしているのか、横断的な視点でつくっているのかというあたり。このあたりは、次の学習指導要領の中では非常に重要なところになりますので、是非研究を進められたらいいかなというように思っております。

続きまして、昨年度よりも上回っているというものになります。15枚目です。先ほどもありましたように、校長先生の見回りというのは非常に改善をされている状況ですし、あと、校内研究、校内研修ですとか、家庭学習の指導についても大幅に改善をされているということです。先ほど、小学校のところで、小学校の場合は、学習方法の指導ですとか、中身のところがまだまだ足りないんじゃないかというところを少しご紹介しましたが、中学校の場合は非常に、63番にありますように、学習方法を具体例を挙げながら指導しているですとか、あるいは61番にありますように、いろんな教科の先生がぼんぼん出すのではなくて、教職員間で共通理解を図りながら家庭学習を与えるですとか、60番のように、保護者に対して働きかけをするですとか、さまざまな家庭学習の指導改革をされてるという

のが見てとれます。

次に、今度は下回ってるところというふうになりますが、全体としては、下回ってるところは、上回ってることに比べたら、少ないかなというように思います。

57番は、小学校のほうにもありましたが、幾つか文言が変わっていたりしますので、少し評価が変わってるところがあるかなというところです。全国よりも高い数字ですので、特に問題はないかなというように思っています。

あと、少人数指導について、少し変化が起きてるのかなというのが、この数字になっております。少人数指導を充実させている学校さんが減っているという見方、数字の出方になってるというところでございます。

あとは、地域連携のところも幾つか下がってるところがありますが、全体としては、下がってるものは少ないと見ていいかと思います。

以上が学校質問紙でございました。

続きまして、生徒質問紙の変化になります。

まずは、全国と比べたときの、上回ってる質問、下回ってる質問になります。

まず、全国より上回ってるものということで、これも小学校と傾向が似てきたなというふうな感じがしますが、よいところを認めてくれるということ、自己肯定感にかかわるところ、それから学びと社会のつながりについて、あるいは理科の実験の体験的なところ、こういったところが高いというのは、非常によい状況かなというように思っています。

それから、逆に下回ってるところですが、これ、５ポイントよりも下回ってるのは、１つしかなくて、週末に何をして過ごしていますかということで、勉強している、読書しているという生徒さんが少ないというところ、これだけが、つまり学習時間の確保には問題があるということかと思います。それ以外は、大きな差はないというように見ていいかと思います。

続きまして、昨年度よりも上回ってる、この１年間で生徒さんたちがよく頑張ったというところが19ページになります。１、２年生までで受けた授業や課外活動で地域のことを調べるということですとか、考えを深めたり、よいところ、いじめはいけない、それから同じ時刻に寝る、人の役に立つ。やはり自己肯定感ですとか地域とのつながり、思考力の育成、これ、小学校と同じ傾向でしたけれども。こういった、恐らく小と中、同じ傾向が出てるということは、教育委員会様の方針がしっかり学校に伝わって、子どもたちにも伝わってるということかなというふうに思います。

下回ってるのは、同じ、これも小学校と同じで、時間のことはおいておきまして、やはり数学に対する意識というのが少し下がり気味というところが課題というふうに言えるかと思います。

21枚目で、少しまとめておりますが、学級運営、小学校に関しては非常によい面が出ておりますが、課題としては学びの質、体験ですとか好奇心、そういったところの質の向上というところが課題かというように思います。

それから、児童に関しては、算数に対する学習意識の低下、これは中学生も同じです、そのあたりを改善していくべきだろうというところになります。

中学校については、カリキュラムマネジメントということを是非考えていただければというように思っています。

では、後半、層別の分析になります。

23枚目をご覧ください。全教科の合計の正答数によって、４つの層に児童・生徒の方たちのデータを分けました。その４つの層に分けた中で、それぞれで質問紙の回答の平均のパーセントを出す、とても何々でした、当てはまるというふうに答えた人の比率を出すというような形で集計をしております。それを層Ⅰと層Ⅳを引き算をするとか、層Ⅰ、層Ⅱで引き算をするということで、差を見て分析をするという手法をとっております。

まず、小学校の層別分析、「層Ⅰ－層Ⅳ」ということで、一番上と、一番そうじゃないⅣの層の方を比較をしたときに、どんな差があるかということで、差の大きな順に並べたものになっています。これ、実は今年、どの層を見ても、最後まで諦めないというところが、差が大きく出てきています。最後まで諦めないで取り組むというところの差の大きさというのが、どこも出てきておりますので、ポイント、特徴かなというふうに思います。

あと、次のページですけれども、25ページ、層Ⅰと層Ⅱの差でいくと、これも諦めないが出てくるんですが、自ら考えるという主体的な学びの態度というのが、ⅠとⅡの差に大きく出ているかなというように思います。

それから、ⅡとⅢの差になりますと、ここもやはり諦めずにというのが出てくるんですが、ここでは学習時間の差が大きく出てくるというようになります。ⅠとⅡの差は、自ら考える主体性、ⅡとⅢの差は学習時間、物理的な時間のつくり方というところかと思います。

27枚目ですけども、今度は層Ⅲと層Ⅳの差になります。ここも諦めないが出てくるんですけども、それと一方で、家庭での過ごし方、過ごし方といいますのは、例えば18番、４

つ目にありますように、家の人と学校での出来事を話をするですとか、16－１にありますような、放課後に家で勉強するですとか、家でどうしてるのかという過ごし方、そういったところが差になって出てきてるというところになります。

それを28枚目にまとめております。

次に、29ページの中学校のほうに参りますが、中学校でも同じように、層Ⅰと層Ⅳ、まず比較をしてみております。ここでの差も、やはり最後まで諦めずにというのが、どこの項目にも出てきております。層Ⅰと層Ⅳの差の大きいところでいきますと、家庭学習や規範意識、主体的思考、あと朝食のこと、そういったところに層Ⅰと層Ⅳの差の大きいところが出てきているということになります。

層Ⅰと層Ⅱを比較したものが、30ページになります。ここでも、諦めずにというのが出てまいりますが、小学校と同様に、主体的に考えるというところもありますし、週末の家庭学習時間、層Ⅰと層Ⅱを分けるのが、例えば17－３、下から３つ目にありますが、家で勉強、読書を週末にしてる方、平日は余り差がないんですけども、週末に差があるというのが、ここの層の違いでございます。

層Ⅱと層Ⅲの違い、次の31ページになります。こちらでは、やはり諦めないというのは出てきますが、あと宿題がちゃんとできてるかできてないかというところの差も出てきていますし、家庭学習の中で教科書を使えてるのかどうかというあたりも出てきています。家庭学習の方法理解に、この辺から問題が出てくるかなと。

学校質問紙の全体の中では、学習方法の指導というのはしっかりされているということが出ましたが、この層Ⅲ、層Ⅳあたりに関して言うと、家庭学習の方法がまだまだしっかり理解できてない状況というのがあるのかなというように見ております。

それから最後になりますが、層Ⅲと層Ⅳの差になります。こちらは、諦めないというところの差も多少は出てまいりますが、全体的に見ていきますと、部活動への参加ですとか生活習慣ですとか、そういったところが中心になってきます。こういった生活習慣のところをどう解決していくのかというのが、層Ⅳの生徒さんたちの課題かなというところでございます。

後半、ちょっと駆け足になってしまいましたが、以上、33ページには先ほど申したところが書いてございます。

以上でございます。ありがとうございます。

○市長　はい、ありがとうございました。

教育長及びベネッセのほうからお話をいただきましたが、少しわかりにくかったところがあるんじゃないかなというように思います。今回の学力調査の結果を受けて、教育長のほうで今後の取り組みの方針を資料の１－１で整理をし、お話をいただきましたが、課題のところに、中学校の、知識を活用する力、無解答率というのが出ていると思います。

偏差値ベースでは、資料１－２のところでは、中学校国語のＢが49、また数学のＢが49ということで、全国平均にはいっていないというのがあるんですが。あと、ここで無解答率というように書いてますけれども、実は平成30年度の国語Ｂは4.3％でありました、無解答率がですね。これが、全国平均は2.9ですから、1.4ポイントの差がある。数学のＢは15.2であります。全国平均が12.3でありますから、2.9のポイント差があるということであります。1.4と2.9ということで、全国に比べて少し劣ってる。これは、きちっと解釈ができていないということと、物が書けてない、そういったところに原因があるんではないかということで、資料の１－１の具体策というところにつながってるんですが。

ただ、これ、平成28年度ベースを見ますと、国語Ｂは全国平均に比べて３ポイント、差がありました。それが1.4に差が縮まってきてる。数学Ｂは、4.3ポイントの差がありました。これが2.9ポイントということで、差が縮まってるということでありますから、全体、まだまだ大きな問題があり、読む能力、書く能力というところに、全国平均にいってないことは間違いないんですけれども、子どもたちの努力、また先生方の努力も見られるということは間違いないのかなというように思ってるところであります。

ただ、この総合教育会議で、やはり学力をつけていこうということで、平成32年の小学校51、中学校50という目標には、まだ達しておりません。そういう面で、今後の学力の充実というのが大きな課題となっております。西島さんの話でも、全体として見ると、結構、先生方、本当によくやっていただいてるというようなことがうかがえるところがありますけれども、ただ、まだまだ課題があることも事実であります。

ベネッセの資料、そして学力調査の結果、そして教育委員会の今後の方向について、今お話を申し上げたところでありますが、気がつくところ、何でも結構です、ご指摘をいただければと思います。

委員の先生方にお伺いをする前に、これらの調査結果、そして教育長といいますか教育委員会の今後の方針、それからベネッセの資料、これらを踏まえて、中学校長会と小学校の校長会の原田さんと服部さんに、それぞれご発言をいただいてから、また委員の皆さんかたにお話を伺いたいと思います。

原田さん、よろしくお願いします。

○原田中学校長会長　はい、いつもお世話になります、中学校長会の原田と申します。先ほどご説明がありましたように、中学校につきましては、もう少し改善が望まれる結果であったということで、それは、頑張っているんですけれども、謙虚に受けとめないといけないところじゃないかと思います。Ｂ問題の課題、無解答率の課題ということで、今後の授業改善に向けて努力する必要があるというふうに思っております。

今、中学校では、学力の向上に向けまして、３つの視点から取り組みを行ってるということの、まず紹介をしてみたいと思っています。

まず１つ目は、授業を支える学習の基盤づくりという視点で、これにつきましては、例えば教室の環境を整えたりするという学習の環境づくりでありますとか、あるいは学習規律の確立、時間厳守でありますとか、あるいは挨拶、返事、授業態度、そういったことがあるかと思います。それから、ともに学び合う集団づくりということで、学校のよさというものは、ともに学ぶ仲間がいるということで、できるだけお互いにかかわり合う時間を多く設定して、温かい人間関係づくりというようなことを目指して、頑張ってるところであります。

２つ目は、これがメインになろうかと思いますけれども、生徒主体の魅力ある授業づくりという視点での取り組みであります。従前から、知識伝達の一方的な授業の脱却、あるいは型だけの問題解決の授業の脱却というものは、随分努力をしていたわけなんですけれども。これについては、この「授業これだけは」という、指導課さんから出されました冊子が、これは指針として中学校では活用を行っております。

めあて、まとめ、自分で考え表現する場というキーワードがあるんですけれども、めあてとまとめについては、これはもう多くの中学校でかなり浸透してるように思います。自分で考え表現する場をバランスよく取り入れることについては、いわば学び合いとかグループ学習といった共同的な学びについてなんですけれども、これについては今以上に推進していくことが必要であり、今後の課題であるというように考えております。

その学び合い、共同的な学習の指針となるのが、市の教育センターさんから出された「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」で、これは主体的な学び、対話的な学び、深い学びという、そういったキーワード、これを念頭に置いた授業改善に取り組む必要があるというようなことで、これが一つの今後の指針になるかなというように思っております。

３つ目は、学校組織としての取り組みという視点が必要ではないかと思っております。といいますのも、教職員個々の努力だけでは、大きな成果は望めません。そのためには、例えば授業改善をテーマとした校内研修の充実については、実は中学校でも校内公開授業を１人１回以上行いましょうというのが、かなり近年、浸透しつつあるというように思っております。ただ、課題としては、公開授業をするんだけれども、参観できる教員が少ない、実際には空き時間のない状況もあります。それから、授業公開した後、研究協議の時間が確保しづらいといった課題もあります。といいますのが、放課後は部活動があって、それを過ぎるとなかなか、家に用事があってというような方もおられますので。そういったことの課題を克服することが、今後の方向性だと思っております。

それからまた、中学校区による研究というものも、かなり、浸透しているように思います。中学校区での合同の研修会ということも、一昔前に比べて随分増えてきてるように思います。例えば、ある中学校区では、ある特別な一日を、例えば中学校で授業するとなれば、３つの、学区内の３つの小学校は子どもさんを帰して、その授業を全員が見て、その後、研究協議をする、それを輪番制でやる、そういうふうな合同研修会というような取り組みも大分増えてきてるように思います。

それから、小・中相互の授業参観ということも、中学校区で増えてまいりまして、実は中学校側としては、小学校の授業を参観させていただくことは非常に多くのヒントをいただけるので、ありがたいことだと思っております。中学校は、ややもすれば教師主導になりがちなんですけれども、小学校の生徒、子どもたちの中から意見を引き出すというような手法を学べる場として、これからもそういうことを続けていきたいと思っております。

そのほか、補充学習の実施とかというふうなことも、テスト前とか夏期休業中とかで行っております。

ちなみに、岡山市中学校長会としても、これは学力向上特別委員会というふうな分掌をつくっておりまして、せんだって、７月に、このようなプリントで、担当の校長が全員に配りまして、６つの共通認識で頑張っていこうじゃないかというようなことを提案しました。その６つの提案といいますのが、１つは家庭学習の充実に取り組もうではないか、２つ目は「授業これだけは」を徹底を図ろうではないか、３つ目が授業公開とか授業参観を積極的に行おうではないか、４つ目は環境整備や補充的な学習を進めようではないか、５つ目は校長先生は授業参観を行おうではないか、最後は学力向上の担当者をきちっと決めようではないかというようなことを共通理解をして、今頑張ってるところでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○市長　では、服部さん、お願いいたします。

○服部小学校長会長　失礼します。政令指定都市の校長会というのがありまして、そこでいろいろ話したときに、岡山市は校長会と教育委員会の関係が極めていいという話が出ました。毎月、合同研修会をして、いろいろ情報交換しながら、いろんな協力をしていただいております。

何で、こんなことを言うかといいますと、先ほど原田先生が言われたように、指導課が「めあて」と「まとめ」のことをきちんとした資料で出してくださって、授業が物すごく変わってきています。私は以前、５年前ぐらい、中学校で教頭をしたんですけど、そのときに最初に行ったときに授業を見せてもらったときには、中学校の先生が多い中で失礼な言い方なんですけど、割と個性的な授業が多かったです。教師主導であったり、教科書主導であったり、それが、指導課さんが出して、指導していただいたために、ここ数年間で物すごく授業が変わっています。間違いなく、授業がきちんと成立して、昔成立してなかったと言ったら失礼なんですけど、いい方向にいってると思います。それはものすごく大きな成果であり、今後もずっと授業としての深化が期待されると思ってます。

小学校でも、めあてとまとめを大事にするというのは、昔からずっとやっていたんですけど、意識として教職員が高まって、私も毎日、授業見て回ってますけど、方法はいろいろあるんですけど、とにかくきちんとしためあてを考えて、まとめを考えた授業をしている授業が多いです。それは本当に、指導課の方のいろいろ指導のおかげだと思っております。この流れは、本当に大事にしていきたいなと思います。

家庭学習に関しては、いろいろ学校でも取り組んではいるんですけど、家庭の実態がものすごく極端に違いまして、この場で言っていいかわかりませんけど、晩御飯を十分用意してもらってない家庭とか、朝御飯食べてない、食べられない子どもとか、家で勉強できるような環境じゃない子どもさんは、いっぱいおります。その中で一律に家庭学習を進めるのは、本当に酷な感じもするんですけど。ただ、学力向上に向けては、家庭教育で定着という部分のフォローでは非常に大事だと思っております。

それから、いろいろ分析があるんですけど、ドリル的な学習だけじゃなく、授業とつながった家庭学習をどんどん進めていく、発展的なこと、社会学習的なこと、それをどんどんしていって、自ら学ぶという気持ちをつくる、それが生涯学習にもつながるということで、非常に家庭学習に目をつけられて、教育委員会のほうが引っ張っていただき、校長会

も一緒にやっていこうということで、いい流れができていると思っております。

校長として、学力テストを見ながら思うんですけど、数字に出ると、いろいろ、順位とかいろんな面で、どきっとするものもあるんですが、よく教職員、頑張ってくれております。一番気をつけるように私が言ってるのは、見栄えのいい、派手な教育、はやりの教育に振り回されずに、基礎基本をしっかりしなさいと。いろんな難しい勉強をしても、しっかり読んだり、しっかりきちっと書くとか、わかりやすく説明するとか、友達の発表をきちっと心で聞くとか、そういったことを抜きにして、見栄えのいい教育を進めたって、すぐ壁にぶつかる。そういったことは、学校でも指導しておりますし、校長会でもよく、その辺の話をしております。

６年生でこのテストを受けるんですけど、一番の決め手は、５年生の学級経営がものすごく影響しているというか、ほとんど影響してるように思います。５年生でいい学年経営ができて、授業が充実していたら、明らかにいい。当たり前のことなんですけど。ですから、日頃の学級経営、生徒指導、本当に頑張っていく、それが数字に出るのは間違いないと思っております。

教員が若手がばっと多くて、年配の先生も多くて、間がいないというのは、ボディーブローのように効いてきています。モデルの先生が少なかったり、校務分掌での引き継ぎ、いろんな教育の技術の伝統がつながらない、そういったことで、本当に学校は頑張っておりますけど、またいろいろ、そういったことにも目を向けていただいたらと思っております。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございました。

じゃあ、委員の皆さん方、何がございましたら、お願いいたします。

○塩田教育委員　ありがとうございました。いろいろ言うことも考えてきていたんですけれども、先ほど校長先生方のお話を聞いて、本当にさまざまな取り組みをされていて、また学校全体もいい方向性に向かっているということを感じました。教育長も言われていたんですけれども、今ある取り組みを本当に徹底して行うことで、また、いい方向に向かっていくんじゃないかなということを感じております。

この学力・学習状況調査については、２つ、思うところがございまして。１つ目は、先ほど西島様からもお話があったんですけれども、本調査の活用を徹底していただきたいというところです。１月に教育委員会で、この調査に参加するということが決まったんです

けれども、そのときに狙いが３つあるということを挙げられていました。３つは、１つは教育委員会、１つは各学校、１つは児童・生徒が、それぞれにこの調査を活用して、改善に活用するという、そういう話だったと思います。

今年は文部科学省のほうから、１カ月前倒しで結果が返ってきたということなんですけど。二、三年前も政令指定都市の教育委員会と教育長会議なんかで、今はどうかわからないんですけれども、夏休みに解析できるように早目に出してほしいということを陳情とかをしていたと思うんですけれども、それが現実のものとなったということであれば、やはりそれをしっかり解析していかなければならないかなというように思います。

それと同時に、学力テストに対する考え方というのが、すごく変わってきているというように思っています。前は何か、ちょっと抵抗感もあったりしたんですけども、課題にも上がってたＢ問題というのは、何か知識というより、生きていくための知恵であるとか能力を問われているというように思います。大学入試も、2020年度から新大学入試に変わっていくというところで、それに大きくリンクしているなというように思うんですけども。それはもう、社会のニーズがそれを求めているということだろうと思います。

ですからこそ、しっかりと、そういったニーズに教育が対応できてるかということを問われているというように思いますので、そこのところはしっかりと課題を分析して、知恵とか能力、生きていくための知恵とか能力というのは、絶対、教育現場だけではできないことだと思いますので、物的資源だとか人的資源というものが必要であれば、その課題を出していって、何が必要かというのを市民の皆さんにもアピールする必要があるのかなというように思います。本当に私、岡山市の教育大綱が大好きなんですけれども、その中で大森市長さんも、オール岡山市で人づくりに努めますというように謳（うた）っていただいているので、力を貸していただくというところがあれば、それを積極的に、学校なりの思いを吸い上げて、教育委員会のほうからアピールしていくということが大切なのかなというように思っています。

それからもう一つ、先ほど無解答率の話が出て、それほど悪くないという。

○市長　悪くないと言ってない。言ってない、言ってない。

○塩田教育委員　ごめんなさい、改善に努力はしているというところはあると思うんですけども、基本的に自己肯定感の高い岡山の子どもたちは、私は何か、諦めやすいというか、潔いというところがあるんじゃないかなというように思うんです。要するに、間違っていることが恥ずかしいとか、それを怖がっているとか、そういうところもあるんじゃな

いかなというように思うんです。今までの勉強って、絶対に正解が求められたと思うんですけれども、これからは正解のない問いかけというのが、いっぱいある、正解のない課題がいっぱいあるんだよということを子どもたちにわかってもらいたいなというように思います。

なので、怖がらずに、アクティブ・ラーニングを進める上でも、いっぱい意見が出てこないことには前に進まないので、どんどん、みんなの思うことを発言していったらいいんだよというような働きかけをしていけば、言うことが苦にならない、そして自分の言うことを書くことが苦にならないというようにつながっていくのかなというように思っています。

以上です。

○市長　はい、ありがとうございました。

ほかに、どうでしょうか。

○妹尾教育委員　どうも、委員の妹尾です。本日はありがとうございます。

私、お聞かせいただいていて、どちらかというと私、保護者目線で、次男が中３なものですから、どうしても聞いちゃってたんですけれども。感想めいたことで恐縮なんですけれども、申し上げます。

まず、家庭学習の徹底というところは、これ、非常に重要な課題だというふうに保護者目線で思ってまして。非常に、「家庭学習これだけは！」もそうなんですけれども、今の教材だとか家庭学習の指針というのは非常によくできてるというように、保護者のほうでは思ってます。ただ、それを実行に移していくというのが、原因ははっきりしてて、うちの子どもで言うとスマホなんですけれども。そういう、十分な家庭学習が、親が努力して言うんですけれども、とれないとかというのは、１つ課題で、このあたりのところもしっかりやっていかないといけないのかなというように思いました。

あと、先ほど教育長のお話で、非常に共感というか、危惧というのか、あれなんですけれども、子どもの成長を見てまして、担任していただく先生によって、もう全然違うというのが、保護者としての実感です。スキルの高い先生にご指導いただくと、親の目から見ても、すごくうまくやってるなというのが、よくわかるんですけれども、そうでない学年のときもありました。なので、ちょうど恐らく40、アラフォー世代の先生で一番脂がのり切る時期の先生が層が薄くて、そういったスキルの伝達も含めて、というのがなかなか難しい課題なのかなというの、本当に共感いたします。

そのほか、これも感想めいたことですけれども、数字というのは非常に重要だと思います。どうしても、数字で一喜一憂するというのは余りよろしくないことだとは思うんですけれども、民間の発想からすると、数字が一番正直というところがあって。今回の結果というのは、現場の先生方の非常な努力でもって、全国平均を維持、あるいは全国平均に近づきつつあるという、よい結果が出たんじゃないかと思います。したがいまして、この授業づくりの基本の徹底、あと家庭学習の徹底、この方向性を進めていくというのは、よいことなんではないかなというように思いました。

はい、以上です。

○市長　はい、ありがとうございました。

ありますか、はい。

○藤原教育委員　ありがとうございました。今、現場の先生方からも、教育委員会と現場がかみ合っているというようなお話を聞いて、だんだん浸透してきてるなというのを感じました。この目標値の51とか50というのは、平均よりちょっといいくらいの目標にはなると思うんですが、子どもたちは今の段階で自己肯定感も結構いいんだけども、本当の意味の自己肯定感は、学校に何時間もいて、勉強がわかるとか自分が新しいこと吸収できているというのは、本当に自己肯定感につながると思うし、市民の方というか、親御さんの安心感にもつながると思うので、そこは目標に掲げていくというのを行政も現場も持たないといけないなと思っております。

１つ、お尋ねなんですが、無解答率は、これ、Ａ問題、Ｂ問題、ともに出てるんですかね。

○ベネッセ（梅田）　はい。

○藤原教育委員　ここにはＢ問題だけが出てますが、例えば岡山の傾向として、Ａ問題のほうが無解答率が高いのか、Ｂ問題のほうが高いのか、これはどっち。

○市長　全部、全部高いんです。

○藤原教育委員　全部高い。

○市長　全部高い中で、Ｂ問題が特に高い。

○藤原教育委員　特に高いということですね。だから、やはり考える力がまだまだだなと思うんですが、１つは家庭学習の質というのか、それを少し見直したほうがいいかなというのを、このところ思っています。多分、ワーク的なことや基礎的なことの宿題はたくさん出ていて、取り組みやすいんですね。能力がある子は、多分時間内というか、学校にい

るときに、もうちゃちゃっと宿題済ませる子もいるでしょうし。ただ、考える問題の、ここでも理科のところで、自由研究であるとか、そういう面にはちょっと弱いというのが出てるのは、体験が少ないのではないかなと思います。

これは、宿題を出すほうも、するほうも、時間がかかって大変だと思うんですが、例えば数年前に教育委員が福井に視察に行かせてもらったときに、学力の高い学校の廊下に張ってあったのは、自由課題、自由勉強の結果がたくさん掲示されていました。これは考える力につながるし、それから今日も、この市役所の１階で岡山っ子プロジェクトのいろんな中学校区の取り組みの中に、比較的学力が高いところの学区の子たちの取り組みに、自主勉ノートというのがありました。だから、自分で考えてするとか、何か研究課題を与えられてする、探究するというのがあって、それを発表する自己表現につながって、考える力につながるのかなと思います。

だから、ここ、ベネッセさんが４層に分けてくださってて、それぞれの層の宿題がいろいろ違うと思うんですが、でも子どもらは、好奇心というのは、それぞれの層の子で、あると思うので、それを先生方、見極めながら、一年通して、いろいろ手を変え品を変えて宿題を出すと、少しそういうところの力がついてくるのかなというのを思いました。

○市長　ありがとうございました。

私、１つ質問なんですけど、校長会のお二方にですけれども。私も妹尾さんがおっしゃったように、数字に一喜一憂する必要は全然ないと思うんですが、数字自身はやはり物を言っているということにつながってるんだろうと思います。それ、西島さんが紹介されたことも含めてね。この数字に対して、アレルギーというか、そういうことを思っておられる先生というのは、いらっしゃるんでしょうかね。要するに、こういう数字に余りこだわる必要はないじゃないかみたいな、そういう思いを持っておられる先生というのは、どうなんでしょうか。

○服部小学校長会長　岡山市教委さんは、偏差値という数字で出されているんで、これは非常にわかりやすくて、納得しやすいんですけど。数字のアレルギーというと、順位がばんと出たときに、0.何点差の中に、何県というか、何市というか、ざっと入っとる中で、その表だけ見ると、何か物すごく、いろいろ感じるものがあるんで、それに対するアレルギーはあると思います。

○原田中学校長会長　中学校も同じようで、順位に対するアレルギーというものはあるかと思いますけれども。客観的に見る材料としては、それは確かに、数字というものは反映

してるものだというふうに思っております。

○市長　いろいろな議論があって、この総合教育会議で偏差値という形を採用したわけでありますけれども、そこは経緯はお聞きになってるかもしれないんですけど。多分、学力をつけていくということに否定的な先生はいらっしゃらないということだろうと思うんですが。じゃ、学力をつけるに当たって、何を参考にしていくのかというところが重要なわけで。全国平均、全国との相対的な比較を見ると、自分の位置がわかる。自分の位置がわかることによって、切磋琢磨をしていく。したがって、学校を出れば完全な競争になっていく。学校の中でも、私はそういう切磋琢磨というのは、ある面の競争という要素はあるんだろうというふうに思うんですが。

若干まだ、こういう学力テストに関して、それを云々するというのにアレルギー的なものがあるとすれば、そこは問題であって。この学力テストで何位になることが目的じゃないというのは間違いないと思うんですけども、これを使って、それぞれの生徒に対して教え、切磋琢磨をし、将来、岡山、そして国を支えていくような、そういう人材になっていただきたいという思いで、そのあたりは校長会でもよろしくお願いしたいというように思います。

ほかに何かご意見ございますでしょうか。もうちょっと時間はありますから。

じゃあ、私の感じを言わせていただいていいでしょうかね。塩田さんに誤解を招かせたというのは、私のプレゼンテーションが悪かったかもしれないんですけど。

私は、だからそういう面で今回の全体の偏差値を見てみると、決してよくはないと思います、そこは。まだまだ改善の余地が大いにあるところであって。ただ、先生方の評価というのは、先ほどの校長会のお話もあったように、私は先生方、努力をしていただいてるというのは、これは誰も否定できないんじゃないかというように思いますけど、結果はまだまだというところは、我々、忘れちゃいけないんじゃないかなというように思います。

服部さんがおっしゃったように、教育委員会と校長会がうまくいってるというところは非常にありがたい話で、そういったことがこの数年間の動きにつながっているんだろうと思うんですけれども、もう少し、子どもたちの改善というのを図っていただかなければならないんじゃないかなというように思います。もちろん、教育というのは人づくりですから、学力の問題だけであるわけがないんで、さまざまな要素があるんですけれども、今日はとりあえずは学力の問題というところに特化しての議論として言うんであれば、もう、そこは一踏ん張り、目標を我々定めたわけですから、その目標に向かって努力をしていく

ということを忘れちゃいけないなというように思うところであります。

まだまだ、過程の１つぐらいが上がったという、表現が、なかなかぴたっとする表現がないんですけど、そういう過程の中にあるということかなというように思ってるんですけど。ただ、西島さんのような資料の中には、いろんないいところが出てますんで、あとはそういう逆に課題を的確に先生方でつかんでいただいて、前に向いていっていただきたいなというように思いますが。

教育長、何かあれば。

○教育長　もう市長さんが言われたとおりで、何も返す言葉がないんですけども。まだまだ、本当に教育大綱で掲げた目標値に対しては、まだまだ離れていますので、しっかりそれに近づくように努力をしていくということが大切であります。

私、自分が説明するときに、最後に話をしたんですけども、先ほど市長さんが、まだまだいろいろ過程にあるんだと、過程、途上にあるんだという話の中で、このいい取り組みを本当に持続可能にしていかないといけない。学力向上に向けてのいい取り組みを持続可能にしていくためには、今、実は子どもに直接かかわっている先生の年齢別の人数で言うと、小学校は、一番年数としては少ないはずの30歳までが最も多いということになっています。中学校は、まだ50代が多いんですけども、それでもだんだんだんだん下に行くほど多くなっているという結果があります。

つまり、今のこの流れを持続可能にしていくためには、若手の教員をしっかり育成していく。若手の教員を、じゃあどうやって育成して、どのような方法で育成していくかというと、この取り組み、学力向上の取り組みをしっかり進めていく、それで先生の指導力を上げていくということが、本当に今、教育委員会に与えられた喫緊の課題ではないかなというように思っています。つまり、逆に言えば、若手の先生がしっかり伸びていけば、絶対に成績は上がるんだということも言えるのかなということも思っておる次第でございます。

以上です。

○市長　今の我々の発言に対して、何かありますか。

藤原さん、はい、どうぞ。

○藤原教育委員　直接ではないんです。先ほどの若手の先生の研修を、授業改善を通してするというの、本当に一番、本当に身につまされるところだから、必要かなと思って。それに岡山は、地域協働とか中学校区のいろんな研修会が行われてるので、それが数字に出

てきているのかなと。

　もう一つ、ベネッセさんのデータでお聞きしたかったのが、これは昨年度と、平成29年度との比較ですよね。

○ベネッセ（西島）　はい。

○藤原教育委員　例えば、今の中３が６年生のときのこういう比較というのは、やっておられるんですか。

○ベネッセ（西島）　いえ、やってはおりませんので、即答はできません。前半のほうですかね、層別ではなくて前半のほうですよね。これを６年間追うのは、質問紙がどんどん変わっていくので、相当大変でありますが、不可能ではございませんが。

○藤原教育委員　６年間ではなくて、３年間。

○ベネッセ（西島）　３年間ですね。今の中３生が３年前の小６でどうだったかですね。

○藤原教育委員　ええ、ええ。

○ベネッセ（西島）　今回やっておりませんが、やることは可能でございます。

○藤原教育委員　すぐにあれば、見たいなと思ったのです。それは、この３年間の中学校の取り組みは、何が功を奏して、何がまだ足りないのか。かなり分析をして、現場も変わってきて、授業改善も進んできて、でも、ちょっと足踏み状態のところもあると思うんです。それを突破するためには、これだけいろんなデータがあるんだから、また違う角度のデータがあったら、できるのかなと。授業改善というフレーズと家庭学習というフレーズは、もうずっと有効だろうということでやってきてるんですが、小学校６年生から中学校に上がって３年間が、どんな意識の変化があるのか、先生方の対応がどうなのかなというのが、もしあればと思っただけです。

○ベネッセ（西島）　今はございませんが、またデータをお預かりして、つくることはできますので、今後のご相談とさせていただきたいと思います。

○市長　ほかによろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　じゃあ、そろそろなんですけども。今回、教育委員会、これは教育長に対しての話になるんですが、資料の１－１、学力向上に向けた今後の取組というところで、校長さんが実施状況を見て回って、教育委員会が学校訪問し、助言していく。こういったことで、しっかり読み、しっかり書くということをやっていく。ということは、先ほどベネッセさんから説明がありましたけども、読むという、そして考え、書いていくというのは、

最後まで諦めないことの裏返しなんじゃないかなというように思います。諦めないというのは、頭で考えるということにつながっていく、頭で考えないとできませんから、ということになるんだろうと思うんで。そこの点、無解答率だけではもちろんないと思いますけども、一つの指標として、そういったところにものがあらわれていくんじゃないかなというように思います。

先ほど申し上げたように、小学校の国語Ａと算数Ａは、若干全国よりもいいんですけれども、小学校だって、国語Ｂ、算数Ｂは全国平均よりも低いですし、中学校は全体に全国平均に比べて悪くなっております。このあたりのところを来年以降で解決していくということが、来年以降と言うと、いつでもいいみたいなイメージになるんですけども、来年なら来年、解決していくというところを是非、私は教育委員会及び各学校にお願いしたい。そうすることによって、学力が上がり、また社会に出て、子どもたちの社会人になってからの成長、そういったものにつながっていくのではないかなというように思うところであります。

それでは、意見もないようでございますので、本日の皆さん方のご意見を踏まえまして、教育委員会、各学校、学力の向上に向けて、さらなる取り組みを進めてもらいたいと思います。人づくりに関する他の議題については、今後また総合教育会議でやらせていただきたいと思います。

最後でございますけれども、何か今日の学力以外で、これだけは言っておこうという話がございましたら。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○市長　今朝は熱中症対策で随分議論しましたけども、まだまだ、そういったところも我々としてやらなければいけないことは、本当、多くあるところであります。その結論は、また別途お話しさせていただくとして、特段なければ、本日の協議はこれまでとさせていただきます。

事務局に進行を戻します。

○司会　ありがとうございました。

次回の会議につきましては、改めて通知をさせていただきます。

以上で本日の平成30年度第１回総合教育会議を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

午後４時47分　閉会